

液ヲ分チ減少セル部分ヲ追加シテ 200 cc トナシ其 150 cc ヲトリ同容量ノ 10 % 酸性亞硫酸曹達液ニテ振盪シ(タンニン質除去)「クロ、フォルム」液ヲ珪藻土ヲ通ジテ濾過シ更ニ之ヲ 100 cc ノ 1 % 鹽酸ヲ以テ振盪洗滌シタル後脱水シ蒸溜シテ「クロ、フォルム」ヲ去リ殘渣ヲ減壓下 70° ニ於テ乾燥シ秤量ス。

以上ノ方法ニヨリ根部 5 g ヨリ 0.1824 g (3.65 %), 根莖部 5 g ヨリ 0.120 g (2.4 %) ノ「アントラヒノシ」誘導體ヲ得タリ。

生藥大黃ノ之等成分ノ含量ハ WASICKY ヤ其他ノ書物ヲ參酌シテ見テモ大體 2-5% デアルカラてうせんだいわうモ立派ニ藥用價值ヲ有スルト云ヒ得ル。

朝比奈先生ハ此化學的ノ貴重ナル根據ヲ與ヘラレ斷定的意義ヲツケラレタコトヲ深く感謝シ、又材料ヲ與ヘラレタ諸氏及此仕事ヲ助力セラレタ山岸、三ツ野、佐々木、高橋、木ノ島ノ諸君ニ謝スル。

「青 花」ニ 就 テ

シマ ダ ヘル ヤ
島 田 玄 彌

H. SHIMADA: Notes on the blue pigment "Aobana" extracted from the petals of *Commelina communis* L. var. *hortensis* MAKINO.

「青花」ト云フノハつゆくさノ花瓣ヨリ得タ花ノ汁ヲ和紙ニ浸マセ乾燥シタ一種ノ色素ノ事デアル、コノ青花ハ隨分古イ歴史ヲ持ツテ居ルモノデアルガ需要ノ量モ少ク一般世人カラ殆ンド忘レ去ラレタモノデアルガ現在デモ滋賀縣下デつゆくさを栽培シ年々青花ヲ製造シテ販賣シテ居ル。先年之ヲ實地ニ見學シ今年モ更ニ之ヲ觀察シテ其ノ不足シテ居タ點ヲ補足スルコトガ出來タカラ茲ニ其ノ大要ヲ記シテ見タイト思フ。

つゆくさは夏ノ頃路傍ヤ少シ濕ツタ草原ニヨク繁ル一雜草ニ過ギナイガ其ノ可憐ナ花ヤ草ノ姿、又鮮ヤカナ空色ノ花瓣ノ色彩ハ誰ノ眼ニモ留ルモノデ昔カラ世人ノ注目スル所トナツテ居テヨク歌ニモ詠マレテ居ル。然シ今吾等ノ云フつゆくさは往昔幾多ノ異名ガアツタラシク文學方面デハつきくさ、つゆくさ等稱シテ居タ。萬葉集ニ

「ツキ草ニ衣ハ摺ラムアサ露ニヌレテノ後ハウツロヒヌトモ」

「ツキ草ニ衣イロドリスラメドモウツラ色トイフカシルシキ」

「ツキ草ニ衣ゾ染ムル君ガ爲メマダラノ衣スムラト思ヒテ」

等ガ出テ居ル。卽染料トシテ用ヒラレテ居ル事ガ窺ハレル。而テ月草又ハ鴨頭草トシテつきくさト訓マセテ居ル。又枕草子、今昔物語、空穂物語ニモ出テ來ル異名ニハ記載ガ古イ草デアアルカラ大變ニ澤山アルガ、鴨頭草、鴨跖草ガ最モ普通デアリ、和名デハつゆくさ以外ニつきくさ、あほばな、うつしばな、ぼうしばな等ノ異名ガアル。

又「延喜式（十五 内藏）」ニハ

「奉_ニ諸陵_ニ幣_{中略} 鴨頭草木綿廿枚別二枚〇_{中略} 已上陵十所料」

ト記載サレ之又染料トシテノ利用ヲ偲バセル、合成染料等ヲ夢ニモ知ラナカツタ昔ノ人ガ最モ原始的ニ衣服ヲ染メルノニヤツタ方法ノ摺染メニ使用シタ大切ナ原料ノーツデアツタ、人智ガ進ンデ植物ヤ礦物ヲ直接ニ摺リ込ンデ染色スルコトナク之等ノ煎汁デ染メル様ニナツテ初メテ梔子、紫根、黃蘗、楊梅、刈安、茜根等ガ用ヒラレル様ニナツタノデアラウカラ、つゆくさハ實ニ是等染料植物ヨリ以前ヨリ用ヒラレテキタモノデアラウ。

然シ一方ニ於テモ藥用又ハ救荒ニモ供セラレタ。「本草和名」ニハ鴨頭草和名都岐久佐トアリ、「倭名類聚抄」ニハ前書ト同様、都岐久佐、辨色立成云押赤草トアツテ最早ヤ本草綱目鴨跖草ト同一品トシテ正常ノ記載ガアル。今其ノ内容ノ價值ハ別トシテ廣ク世ニ識ラレテ居ル「本草綱目」ニ依レバ 草之五隰草類下ニ鴨跖草トシ異名ヲ掲ゲ、次ニ

鴨跖生江東、淮南平地葉如竹高一二尺深碧好爲有角如鳥嘴_{中略}巧匠採其花取汁作畫色及彩羊皮燈青碧如黛也 苗〔氣味〕苦大寒無毒〔主治〕寒熱瘧瘡痰飲丁腫肉澁滯小兒丹毒發熱狂痢大腹痞滿身面氣腫熱痢蛇犬咬 以下略

トアリ、藥効ハ利尿、解毒ラシク又明ラカニ染料ニ用ヒラレタコトガ分ル。

又救荒植物トシテノ記載ハ「救荒本草」卷二 竹節菜（あをばな、つゆくさ）ノ項ニ「救_レ飢採_ニ嫩苗葉燂熱油鹽調食」トアル。

今染料トシテノ記載ヲ更ニ精査スルニ、

「和漢三才圖會」ノ末項ニハ「按鴨跖草^{ツキグサ} 和名都岐久佐俗ニ云フ知久佐、處々ニ多ク之有リ其花汁ノ濃キ者ヲ用ヒテ紙ヲ浸シ染メ呼ンデ青花ト云ヒ畫具トナス勢州ヨリ之ヲ出ス江州モ多ク作り出ス」トアリ、既ニ商品トナツテ市販サレテ居タ事ガ分ル。之ヨリズツト後ニ刊行サレタ「重訂本草綱目啓蒙」ニハ

「江州栗本郡（筆者云現在ハ栗^{クリダ}太郎ト書ク）山田村ニハ熟地ニ栽テ花瓣ノ汁ヲ採名産ナリソノ種尋常ノ者ニ異ナリ苗高サ 3,4 尺葉ノ潤サ一寸許リ長サ 6,7 寸花大サ 1 寸餘毎朝瓣ヲ採直ニ搾リテ紙ヲ染四方ニ賣出スコレヲ山田ノアラバナ

ト呼勢州ニテハハウシガミト云關東ニテハアキガミト云衣服ノ下繪ヲ畫クニ必要ノモノナリ此紙ヲ切皿ニ水ヲ入テ絞レバ青汁出ルヲ用テ衣服ノ花樣ヲ畫キ糊ヲオキテ染汁ノ内ニ入レハ皆消脱ス又扉面ニモ用フ色鮮好ナレドモ水カ、ルトキハ皆脱去ス舶來羊皮燈ノ彩色ニ用ユ火ニ映シテ鮮明ナリ」

ト記載セラレ「救荒本草啓蒙」ニモ殆ンド同様ノ記載ガアル。稍々異ル記載ハ「物類品隨」デアツテソレニハ

鴨跖草 和名ツキクサ又ツユクサ又アヲハナト云讃岐方言カマツカ近江彦根方言コンヤトラウト云所在ニ多シ花碧色ナリ中略近江栗本郡山田産葉ノ長 6, 7 寸花瓣大サニ近シ土人多植ヲ利トス6月13日ヨリ7月13日ニ至テ花ヲ採ノ候トス舉家野ニ出テ花ヲ取り汁ヲ搾リ紙ヲ染是ヲ青花紙ト稱シテ四方ニ鬻其製傳アリ

ト記シ多クノ本草書ガ先人ノ書ノ孫引的ナ記載シカヤラナイノニ流石ニ平賀源内ハ獨創的ナ記述ヲシテ居ル。

現時京都ニ於テ拙友禪或ハ絞リ染ノ下繪ニ用フノハ實ニ之ノ青花デアツテ今モ昔ト變ラズ之ノ滋賀縣栗太郡山田村デ年々栽培、製造サレテ居ルノデアル。合成染料全盛ノ昨今尙之ノ青花ガ使用セラレ從ツテつゆくさ（實ハ栽培變種ノ大型ノモノ）ガ山田村デ年々栽培サレ青花ガ製造サレテ居ルト云フ事ハ、我々植物愛好家ニトツテハ涙ノ出ル程有難イコトデ正ニ天然記念物モノデアル、先年好機ヲ得テ實際ニ之ヲ見學シ盛ンニ栽培サレテハ居ルモノ、果シテ何時迄コノ状態ヲ維持シテ行ケルモノヤラト思フト物淋シイ氣持ガシタ、嘗テノ茜根ヤ我邦ノ藍ノ様ナ運命ヲ辿ルモノデハアルマイカ、兎マレ健康ナ今ノ状態ヲ記載シテ願ハシクナイ事デハアルガ他日ノ記念トショウ。

原植物

上記文獻ニ記載サレテ居ル如ク吾人ノ日常見ルつゆくさ (*Commelina communis* L.) ノ栽培變種 (*C. communis* var. *hortensis* MAKINO) デアツテ、飯沼慾齋ノ「増訂草木圖說」草部卷一ニおふばうしばな 近江栗太郡山田村ニテ栽培シ云々」トアル、從ツテ日本植物總覽ノおほばうしばなデアル。

沿革及傳説

前記滋賀縣栗太郡地方ハ昔ヨリ大飢饉ガ度々アツテ住民ガ苦シダガ何時ノ氾濫カ分ラヌガ或ル年ノ洪水ノ後ニ之ノつゆくさノ花ガ川堤ニ咲キ村民ガ栽培シ無意識ニ紙ヲ染メテ居タガ後ニ立派ナ應用ノ道ガ開ケタト謂ハレル。

又一説ニハ栗太郡金勝村（山田村ヲ流レル草津川ノ上流ニアリ）ノ縣社大宮神社ノ祭神ガ此ノ村ノ洪水ニヨル窮乏ヲ憐ミ給フテ之ノつゆくさノ種子ヲ洪水ニ託シシテ村民ニ賜ツタモノダト云フ。

栽培ノ概略

種子：毎年最モ大キナ花ト立派ナ草勢ノ株ヲ選ビ之ヲ母株トシテ之ヨリ種子ヲ採ツテ保存スル。

播種：3月下旬頃苗床ヲ平ニシ稀薄ノ人糞尿ヲ施シ播種スル寒冷ナル場合ハ藁等ヲ用ヒテ四方ヲ圍ヒ保温スル、溫床ハ用ヒナイ之ハ苗ノ管理ガ充分デナイト軟弱ニナル傾向ガアルカラデアル。

移植：播種後約2ヶ月経ツト苗ハ3,4寸ニ生長スル大抵5月10日前後ニ苗ヲ本圃ニ移ス。

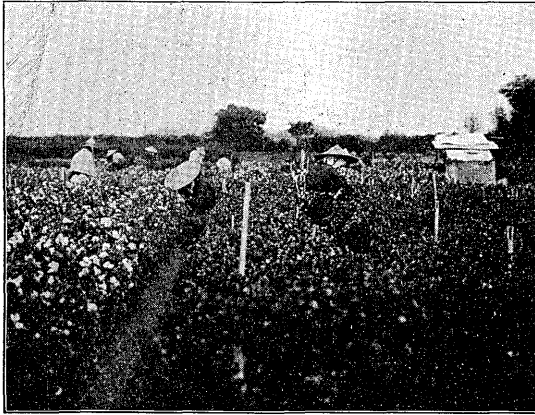
本圃：前作ハ大根ノ如キ蔬菜カ或ハ麥デアル。麥ナラバ之ノ株ヲ起シ畝中ハ2.5尺麥株ヲ埋メ土ヲ6,7寸位盛り畝間ハ1.5尺位トシ管理ニ便利ヨクスル。之ニ1列ニ1本宛2尺ノ間隔ヲ置イテ移植スル。生長ニ伴ヒ分蘖シ丈ガ長クナルカラ之ノ苗ノ列ヲ挟ンデ兩側ニ木ノ枝、竹等ヲ1間置キ位ニ立テテ支柱トシ之ノ支柱ノ間ニ藁繩ヲ張ツテ苗ノ倒レルヲ防グ。

肥料：本圃ニ移植後直グ稀薄ノ人糞尿ヲ施シ其後ハ輕度ニ施肥スル。8月上旬迄ニ木灰ト油粕又ハ人糞尿ヲ風呂ノ水デ薄メ2回程施シ適時除草サヘスレバ大體成績ハヨイ。

摘花：7月中旬ヨリ開花シ始メルガ實際ニ摘花スルノハ別項ノ如ク7月25日前後ヨリ始メ連日採集シ8月一杯時ニハ9月5,6日頃迄續ケル。つゆくさと云ハレルダケアツテ早朝ニ開花スルカラ5時半頃カラ摘ミ始メテモヨイノデアアルガ餘リ早朝デハ花モ小サク又花ノ蜜ガ入ツテ來ルカラ製品ガ之ノ蜜ノ爲ニ幾分カ黒味ヲ帶ビテ來テ品質ガ惡クナルト云ハレテ居ル。ソレデ先ヅ適當ニ早カラ10時頃迄摘ムノデアツテ餘リ晚ク迄カカルト今度ハ花瓣ガ萎レテ來テ採集ガ困難ニナツテ來ル。又花ハソノ朝咲イタモノハ悉ク採集シナイト採リ殘シテ置クトソノ花ハ萎レ腐敗シテ粘着性ヲ帶ビテ來テ翌日ノ採集ニ不快デアリ且又ソレ等ガ混ツテ採集サレルト製品ノ品質ニモ宜シクナイノデアル。兎モ角花ガ生々トシテ居ル間ニ迅ク採集セネバナラス、カラ採集ハ全ク家ヲ舉ツテ出カ



第1圖 おほぼろしばな (山田村ニテ筆者撮影)



第2圖 滋賀縣栗太郡山田村ニ於ル おほばうしばな
採花ノ現況、右手ノ小舎ガ子供ノ小舎（筆者撮影）

皆出カケルノデアルカラ極小サイ子供迄オ伴シテ畠ニ出テ來ル、夏ノ陽ハ9時10時ニハ可成リ酷シイ、ソコデ極幼イ子供等ハ之ノ小屋ニ避難シテ母親ヤ兄弟ガ花ヲ摘ムノヲ待ツテ居ル、行ツテ見ルトナル程小屋ノ中ニハ藁繩ノブランコガアリ玩具ガ散亂シテ子供ガ騒イデ遊ンデ居ル。全クコノ小屋ハ案外デ、知ラ



第3圖 花瓣ヨリ汁ヲ搾リ出ス壓搾装置ト塗り臺 刷
毛ヲ手ニセルハ堀井清吉氏（筆者撮影）

ケルノデ朝ハ山田村ノ家ハ皆留守デ誰一人居。ナイ皆畑ニ出テ居ル、全ク一家總動員デアルノデアルカラ茲ニ我等ノ思ヒガケナイ事ガアル。ソレハ第2圖ニモ一寸見ラレル様ニソノ右手ノ藁葺ノ小屋ハ初メ我等ハ肥料小舎位ニ思ツテ居タガ實ハサウデハナク之ハ子供ノ遊び場所ノデアル、ト云フノハ花ヲ摘ミニ老婆モ息子モ幼イ娘モ子持チノ嫁モ

ヌ人ハ西瓜畑ノ見張り小屋カト思フデアラウ。

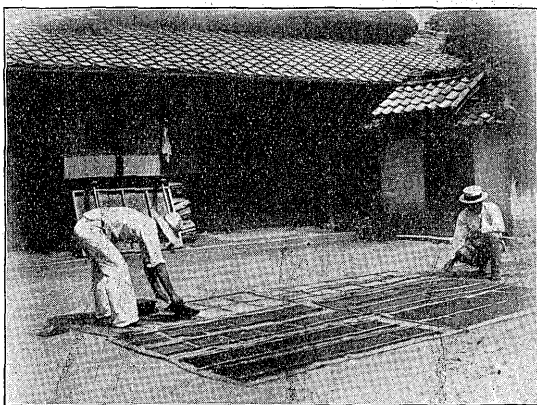
摘花ハ各自ガ小サナ竹籠ヲ携ヘ摘ンダ花ヲ入レテ順次ニ畠ノ畝道ヲ摘ミ乍ラ横ニイザツテ行ク、之ノ籠ニ一杯ニナルト3分目ノ針金又ハ5分目ノ籐ノ篩デ採集シタ花瓣ヲ篩ヒ一所ニ混ツテ來タ雄蕊ヤ萼片ノ切ツ端ヲ篩ヒ去ツテ花瓣ノミヲ選リ分ケ大キナ籠ニ移シ又採集ヲ續ケル。

「青花」ノ製造

摘花ガ終ルト之ヲ家ニ運び全部ヲ1ツノ徑1尺許リノ紅鉢ニ入レテ之ヲ輕ク手デ揉ミ泥狀トシ後布デ包ミ搾汁桶ニ入レ第3圖ノ右手ニアル簡單ナ壓搾装置

デ搾汁スル最右端ハ重イ石デ傾仕掛ケデ桶ノ中ノ布ニ包シタ花ヲ壓スル。桶ノ横ニ竹筒ノ流出口ガアツテ之カラ流レ出ス汁ヲ別ノ鉢ニ受ケル。之ノ人物ノ前ノ小サナ机ハ紙ニ花ノ汁ヲ塗ル臺デアツテ刷毛デ輕ク刷イデ行ク。一定ノ時間ガ經テ壓搾シテ居テモ滴リ出ル汁ガナクナルト桶カラ花ヲトリ出シ再ビヨク手デ揉ンデモ一度之ノ壓搾器ニ掛ケテ搾汁ヲヤル之ヲ4回程モ繰返ス。一番終リノ絞リ粕ハ粘滑性ノ團子ノ様デアツテ之ハ牛ニ食ハセルサウデアル。

之ノ青花製造ニ用フル紙^{デンガチヤツ}ハ天具狀ト云フ非常ニ薄イ美濃紙デアツテ之ノ1束ハ96枚アツテ目方デ約30匁デアル。コノ紙ハ薄イノデ1枚宛ニ塗ルト紙ガ破レルシ取扱ヒガ困難デアルカラ初メハ4枚宛重ネテ儘花汁ヲ塗ル、1束ハ96枚デアルカラ始メハ1束24枚トナル譯デアル。塗り方ハ通常ノ糊刷毛ニ花汁ヲ含マセ前



第4圖 青花乾燥ノ狀況（筆者撮影）

記ノ小サナ机ヲ臺トシテ紙ニ花汁ヲ塗ツテ行ク24枚塗レルト直チニ庭ニ持テ出シ天日ニ直射デ乾ス、第4圖ハ其ノ乾燥ノ有様デアツテ農家ノ前ノ庭ニ筵ヲ敷キ之ニ順次ニ竝ベ風デ吹キ飛バサレナイ様ニ篠竹ヲ押ヘテ置ク。又雞ガ出テ來テ泥足デ踏ンダリ、犬ガ來テフザケタリセヌ様監視ガ要ル。

乾燥ガ充分デナイト次ニ又汁ヲ塗ル時ニ前ノ分ガ剝レテ逆ニ流レルコトトガアル、然シ夏ノ陽ハ烈シイシ風モアル故ニ極ク速カニ乾ク、乾イタラ直ニ又之ニ塗ツテ又乾燥スル。之ヲ何度モ繰返シ其日ニ得タ花汁ヲ皆使ヒ盡ス迄行フ、雨等ノタメニ花汁ガ殘ルト翌日位迄ハヨイガ（之ヲソノ地デヒネ汁ト云フ）二晩モ經ツト酸敗シ液ハ赤味ヲ帶ビテ使ヘナクナル、大抵ハ1日ニ6,7回繰返シ塗ル、1度塗ルト4枚1枚トシテ24枚デ1回約1匁宛目ガ増エテ來ル、ソコデ一束ガ100匁ニナツタ時紙ハ大分厚ク丈夫ニナルカラ始メ4枚重ネテアルモノヲ少シ濕ツテ居ル時2枚宛ニ分ケル。2枚ニ剥イダ各接合面ハ幾分染リ方ガ淡イカラ之ノ面ニ更ニ3,4回花汁ヲ塗り仕上リトナル。一束今デハ48枚トツタモノヲ四ツ折ニ疊ミ之ヲ普通ノ厚手模造紙デ包裝スル之ノ模造紙モザツト1度花汁ヲ塗ツテイカニモ青花ノ包裝紙ラシクシテアル。第5圖ハ出來上リ製

品デ之ヲブリキ罐ニ入レ濕氣ヲ防イデ貯藏ス。

「青花」ノ收量

サテコノ收量デアルガ、ソノ年ニヨリ天候ニ左右サレ一定デハナイガ大體一



第 5 圖 出來上ツタ製品「青花」ノ括リ (筆者撮影)

畝ヨリ 4 束前後ノ「青花ガ」得ラレル、1 束ノ値段ハ之亦高低區々デアルガ歐洲大戰ノ好況時代ニハ 25 圓ニモ騰リ昭和 4, 5 年頃デモ 15-17 圓モシタガ時ニハ 5 圓位ニモ下落シ昭和 9 年デハ 10 圓〜13.8 圓、本年デハ現在 6.5 圓位デアル。又之ヲ京都ノ青花屋(染料屋)デー枚賣ノ小賣ヲスルトキハ 30 錢位デアル、昭和 9 年ノ滋賀縣下ノ産額ハ約 3,000 束、

山田村ハソノ中心地デ約 5 分ノ 1 ノ 600 束ヲ製産シ他ハ之ノ近村ヨリ産出サレル、全栽培面積約 7 町歩デアル。

又ソノ毎日ノ摘花量ハドウカト云フニ之ハ其日ノ天候ニモヨルガ次表ノ如ク大體 8 月カ、リヨリ採集シ始メ 8 月 10 日前後ガ最盛期トナリ段々ニ減收トナリ 9 月ニ入ルト急ニ減少スル云フ状態デアル、生化學的ニ觀テ亦面白い曲線ヲ示スモノデアル。

次頁ノ表ハ滋賀縣栗太郡山田村出屋敷堀井清吉氏ノ連日ノ努力ニヨリ得ラレタルモノデアル。氏ニ厚クソノ御厚意ヲ感謝スル次第デアル。

サテ之ノ青花ガ京都ノ染料屋ニ持ち込マレルノデアルガ近頃ハ製品ノ検査ヲヤル組合ガ出來テ品質ガ統制セラレル様ニナリ從テ信用シテ取引出來ル、値段ハ組合ノ検査合格證ノアルモノハ幾分ニ高イ、又検査ヲ受ケテ居ラナイ製品モアツテ之ハ俗ニ「バラ」ト云ハレテ居ル、値段ハ少シ廉イガソノ代リ品質ハ保證サレナイ、京都ノ染料屋デハヤハリ之ヲブリキ罐ニ防濕シテ貯ヘ時々包装ヲ解イテ風ヲ通シ變質ヲ防イデ居ルガヤハリ 3, 4 年モ經ツト多少變質シテ來ル、秋ニナルト京都市内ノ染料屋ノ店先ニ「新青花アリ」ト書イタ札ガ下ツテ居ルコトガアル、新茶ノ様ニヤハリ新シイノガヨイノデアル。

之ノ用途ハ前ニモ記シタ様ニ描友禪或ハ絞り染ノ下繪ヲ書クノニ必要デアツ

青花（花簪）ノ收穫量（生ニテ）

	昭和 9 年 (畑 3 畝 5 歩)	昭和 10 年 (畑 3 畝)		昭和 9 年 (畑 3 畝 5 歩)	昭和 10 年 (畑 3 畝)
8月 1日	1.685	1.200	8月 19日	1.020	1.420
2日	1.375	1.900	20日	1.000	1.500
3日	1.825	1.100	21日	0.870	1.200
4日	1.900	1.400	22日	1.065	1.300
5日	1.530	1.700	23日	1.250	1.350
6日	1.775	1.900	24日	1.050	1.200
7日	2.075	1.170	25日	1.250	1.000
8日	2.000	1.170	26日	1.255	0.930
9日	2.070	1.120	27日	1.310	0.900
10日	2.050	1.900	28日	1.800	0.750
11日	2.000	1.300	29日	1.320	0.920
12日	2.685	1.400	30日	1.050	0.820
13日	1.790	1.100	31日	0.840	0.630
14日	1.900	1.120	9月 1日	0.780	—
15日	1.830	1.250	2日	0.730	—
16日	1.580	1.250	3日	0.725	—
17日	1.550	1.200			
18日	0.970	1.300	收穫累計	44.680	38.460

テ之ヲ青花ヲ 1 寸 4 方位ニ切ツテ白イ小皿ニ入レ水ヲ滴シテ色素ヲ浸ミ出サセ、鮮明ナ碧色ノ汁ヲ筆ニ含マセテ生地ニ下繪ヲ書クノデアル、之ハ水デ洗ヘバアトカタモナク全クサツパリト流レ去ルノデ少シモ他ノ色ノ邪魔ニナラヌ便利ナモノデアル。又京都ニ「すやもちや」ト稱スル餅屋ガアルガコノ餅屋ハ東西兩本願寺ヘおけそく（佛前ニ具ヘルオ餅）ヲ拵ヘテ納メテ居ルガ之ノおけそくヲ染メル染料ハ今モ尙合成染料ヲ用ヒズ赤ハ紅、黄ハ梔子、青ハ之ノ青花ヲ染料トシテ用ヒル、又青花ソレ自體ガ一種ノ藥品トナル、ソレハ生レタ許リノ赤ン坊ニ昔ハヨク胎毒下シト稱シテ「五香」ト云フ藥ヲ服マセタ、ソノ五香ノ代リニ青花ノ浸出汁ヲ服マセテ胎毒下シトスル所モアル、又花ヲ採ツタアトノ莖ヤ葉ハ浴湯料トシテ用ヒ神經痛等ニ效クト云ハレテキル。

之ノ青花ノ成分ノ化學的研究ハ理研ノ黒田チカ子女史ニヨリ行ハレ大變立派ナ業績デアル（P.I.A. 7, 61~63; 1931, 9, 95~96 1933）。ソレニヨルト之ノ

青花ノ色素ハヤハリアントチアン、デルフィニデンモノグリコシードデアツテ是ハ生體內デハ無機物ト複鹽トナツテ存在シテ居ルモノデアラウト云フ事ニナツテ居ル、之ノ花汁ヲ瓶ニ入レテ持ツテ歸リ殆ンド氷點ニ保ツテ貯ヘテ置クト1年位ハソノ色調ハ新鮮時ト餘リ變リガナイ、又之ヲ試験管ニトリ鹽酸々性トスルト赤紫色トナリ色調ハ時間ノ經過ニ伴ヒ濃クナル、又苛性加里アルカリ性デハ鮮藍色ハ直チニ綠色トナリ鶯色ヲ經テ速ニ汚褐色トナル、炭酸アルカリデモ大體同ジ様デ色ノ變化ガ稍々緩イ様デアル。

可憐ナ花、露草ノ永遠ニ斯ク栽培サレン事ヲ祈リツ、筆ヲ擱ク。栽培ノ現地ヘ案内シテ呉レラレタ望月秀雄君ニ感謝スル。

(於京都藥學專門學校生藥學教室)

「スガー」(鹽川) ト其植物相ニ就テ

岡 田 喜 一

Yoshikazu OKADA: Report on the Flora of the "Sugâ" or the Salt-river in Okinawa Island, Ryûkyû.

筆者ハ 1937 年 4 月、日本學術振興會ノ援助ノ下ニ琉球諸島ヘ淡水藻類研究調査ノ目的ヲ以テ渡島スルコトヲ得タガ、此際適、「スガー」ト稱スル奇異ナル河川ニ遭遇シタ。

「スガー」トハ琉球沖縄島ノ方言デ「鹽ノ川」ト云フ意味デアル。即チ、鹹水ノ河川デアツテ、所謂瀝水ト異ナルノハ直接海水ノ影響ヲ受ケル事ガ全クナク常ニ水源地カラ鹽分ヲ含有スル湧水ガ流出シテキルモノデアル。

從ツテカ、ル河川ノ植物相ハ其河川ノ性質ト共ニ甚ダ特異ナ興味アルモノト考ヘラレルノデ、此處ニ上記ノ研究目的ノ一部トシテ考究シタ結果ヲ報告スルト共ニ「スガー」ソノモノ、現象ガ、從來筆者ノ知ル範圍ニ於テハ全ク報告サレテ居ラナイト考ヘラレルノデ兼ネテ甚ダ不充分ナガラ此河川ニ就テ見知シ得タ點ヲ聊カ參考資料トシテ附ケ加ヘタイト考ヘル。

「スガー」ノ所在地ト其概況

「スガー」ハ筆者ノ知ル範圍ニ於テハ目下三ヶ所アルガ、何レモ沖縄島ニ限ラ